週に一度はNIE〈Newspaper in Education〉

宇宙飛行士　大西（おおにし）　卓哉（たくや）さん（41歳）　（朝日新聞 2017年4月1日）

宇宙の活動 ブログで発信

「ソユーズで無重力状態に到達した後、しばらく自分が忍者みたいに天井に張り付いて部屋の中を見下ろしているような感覚が抜けなかったです」

昨年7月、ロシアの宇宙船ソユーズに乗って宇宙へ飛び立った。2日かけて国際宇宙ステーション（ISS）に向かい、ISSに着いた2日後にはもう、こんな風にブログにつづった。

10月までの113日間、共にソユーズに乗ったロシアや米国の宇宙飛行士らと、ISSに滞在。実験など数々のミッションをこなすかたわら、その経過や生活の様子、感想をほぼ毎日、日本語のブログで発信し続けた。

その様子から、「宇宙ブロガー」と呼ぶ人まで現れた。

国際宇宙ステーションの実験棟「きぼう」の実物大模型の中でジャンプ。「浮いていた感覚は覚えていない。宇宙にいたのが夢のようです」＝茨城県つくば市の筑波宇宙センター

1回の投稿は長行だったが、むずかしい専門用語を丁寧に解説し、写真や顔文字も織り交ぜた。失敗談や本音も満載で、宇宙をリアルに感じられる。アクセス数は1日ざっと20万件にのぼった。

ツイッターなど短行で発信する宇宙飛行士はいた。だが、ここまで詳細な文章で伝えた例は聞かないという。ブログを開設したのは2015年元日。宇宙へ行くまでの訓練から、帰還後のリハビリまで知ることができる。

ブログ発信は、自身の強いこだわりだった。宇宙飛行士が何をしているかあまり知られていないことに、違和感を覚えていた。「宇宙の景色を写真で紹介して興味を引くだけじゃなく、どんな研究や生活をしているのか、知ってもらいたかった。宇宙飛行士自身の口でしか、そこは語れません」

もともと筆無精。でもISSでは、寝る前に1時間ほどかけてつづった。

宇宙でかかわった実験の中で、もっとも印象深いものの一つが、マウスの飼育実験だ。無重力の状態だと、筋肉の萎縮や骨量が減るなど、加齢現象が加速する。マウスの観察でその要因を解明できれば、加齢による病気の予防や治療に役立つ可能性がある。

マウスの飼育装置に不具合が起きたものの、日々改良し、世界で初めて12匹すべての生存帰還に成功した。

「宇宙空間はとても特殊な環境。そこでしかできない実験や研究がある。それを知ってもらい、地上の人たちに還元できるような成果を出していくのが、僕らの責任です」

前職は全日空の副操縦士だった。その経験を生かし、ソユーズでは船長の補佐役を果たした。ISSではロボットアームを操り、物資を載せた補給船をつかむという大仕事を成功させた。

世界的に見ても、軍所属ではなく、旅客機に乗っていたパイロット出身の宇宙飛行士は珍しい。

一生パイロットの道を歩むつもりでいた。だが小さな新聞記事をきっかけに、幼少期の宇宙への夢が再燃した。

文・植松佳香　写真・竹花徹朗

◀3面に続く

1. いつの時代でも空は人に夢を与えてくれます。2016年7月にロシアの宇宙船が飛び立ちました。そのときの宇宙船の名前は何でしょう。

2. 宇宙飛行士の大西さんは、何か月間、宇宙ステーションに滞在しましたか。

　　か月間

3. 大西さんが宇宙からブログを発信していた理由は何でしょう。

4. 記事の中にある「筆無精」とは、どういう人のことか。また読み方は何か。

どういう人

読み方

5. あなたが宇宙に行くことができたらどのような実験をしてみたいですか。書いてみましょう!!

NIE No. 7　平成30年6月6日(水)実施	CHECK
年　組　番　氏名	